

年4回（4月、7月、10月、1月の各10日）発行

ひゅーまんねつとわーく

特別連載

障がいのある方の権利擁護虐待防止

地域生活

2024年 1月 発行 / 第96号

社会福祉法人 北摂杉の子会

〒569-0071 大阪府高槻市城北町1丁目6-8 奥野ビル3F TEL 072-662-8133 FAX 072-662-8155 info@suginokokai.com



杉の子農園収穫祭とはにわキッチンの様子



福井へ温泉旅行に行ってきました! (ジョブジョイントおおさを卒業したOBOGさん)



新年にあたって ～ 多くの「行動的な課題」のある人の 地域での豊かな暮らしの実現を願って ～

社会福祉法人北摂杉の子会

理事長 松 上 利 男

新年を迎え、皆様のご多幸とご健勝を祈念申し上げます。

今年も引き続き当法人・事業所運営に対するご理解とご支援を賜りますように、衷心よりお願い申し上げます。

さて、私が障害福祉分野で働き始めて、昨年で50年を迎えました。

働き始めて約15年間は、知的障がいのある人の就労支援に関わり、その後の35年間は、重い知的障がいを伴う自閉スペクトラム症のある人、特に多くの「行動的課題」（強度行動障がい）のある人の支援とともに、調査・研究事業にも携わってきました。

強度行動障がいのある人の支援については、1988年に、当時弘済学園長・日本女子大学教授の飯田雅子先生がその支援の必要性から政策的な観点に立って、「強度行動障害」という概念を定義され、その後、その支援について、国としての様々な対策が講じられてきましたが、有効な解決策にはつながりませんでした。

支援者の養成については、私が研究検討委員として関わった「強度行動障害支援初任者養成研修プログラム及びテキストの開発について」（2013年度、2014年度厚労省障害者総合福祉推進事業）の研究を経て、現在の国研修「強度行動障害支援者養成研修」へと繋がっています。

「強度行動障害」の概念が定義されてから約35年が経過しましたが、強度行動障がいのある人やその家族を取り巻く多くの支援課題について、解決には至っていません。

私が会長を務めている職能団体である（一社）

全日本自閉症支援者協会での研究で、強度行動障がい支援についての地方自治体の要望を調査したところ、以下の要望が明らかになりました。

- (1) 強度行動障害を積極的に受け入れる施設が少ない
- (2) 在宅の強度行動障害者を支える事業所が少ない
- (3) 事業所における強度行動障害者支援の専門性の確保

このような強度行動障がい支援に係る現状を踏まえ、社会保障審議会障害者部会においても強度行動障がいのある人の支援が国としての重要課題であることが、障害者部会の報告書に明記されました。

そして、今後の強度行動障がいのある人の支援の在り方を具体的に検討する場として、「強度行動障害を有する者の地域支援体制に関する検討会」が設置され、8回の検討会での議論を経て、昨年3月に検討会の報告書がまとめられました。

報告書の中で、今後の強度行動障がいのある人の地域支援体制の在り方について、以下の支援の方向性が示されました。

- (1) 支援人材のさらなる専門性の向上
- (2) 支援ニーズの把握と相談支援やサービス等に係る調整機能の在り方
- (3) 日常的な支援体制の整備と支援や受入の拡充方策
- (4) 状態が悪化した者に対する「集中的支援」の在り方
- (5) こども期からの予防的支援・教育との連携
- (6) 医療との連携体制の構築

私も検討構成員として、検討会での議論に関わりましたが、当初、厚労省から示された論点は、行動障害のある人の支援の在り方に重点が置かれていました。しかし、10名の全ての検討構成員から、「強度行動障害のある人の支援の在り方の議論と共に、行動障害を誘発させない幼児・学齢期からの早期の療育・教育支援と家族支援についての検討が必要である」との発言がありました。その発言と議論を踏まえて、「こども期からの予防的支援・教育との連携」が報告書の中で明記されました。

前述しましたように、飯田雅子先生が「強度行動障害」の概念を定義して以来、35年を経て、やっと強度行動障害のある人を取り巻く様々な支援課題の整理と幼児・学齢期から青年・成人期にわたる切れ目のない支援の在り方・方向性が示されました。

特に強度行動障害のある人を支援する支援者を教育・育成する仕組みとして、新たに法人・事業所の中で人材育成を担う中核的人材（スーパーバイザー）が位置付けられました。

その中核的人材の育成については、24年度（令和6年度）から新たな養成プログラムによって、育成することになります。

制度的な見通しとしては、より重篤な強度行動障害のある人を支援している事業所に中核的人材を配置すれば、現行の重度障害者支援加算に上乘せた加算が支給されることになります。

また、中核的人材をサポートする広域的支援人材（スーパースーパーバイザー）の育成プログラムの開発と配置の仕組み等については、24年度（令和6年度）からその研究が始まる予定です。

私ども法人は、今回、国が示している中核的人材育成について、既に大阪府と協議・連携の中、「重度知的障がい者地域生活支援体制整備事業」として、20年度（令和2年度）から先行して実施しています。現在、6法人の事業所に、私ども法人職員をコンサルタントとして派遣し、派遣先の

事業所における人材育成を担うコアメンバーの職員の育成を行っています。

この取り組みは、兵庫県にも広がり、24年度（令和6年度）からは、堺市との連携事業として取り組みが始まります。

私ども法人は、昨年、法人設立25年を迎えました。生活施設（障害者支援施設）「萩の杜」は、法人設立の翌年に開設しました。利用者の8割以上は大変重い知的障がいを伴う自閉スペクトラム症・多くの「行動的課題」のある人たちです。開設後も地域における多くの「行動的課題」のある自閉スペクトラム症の人や大変重い知的な障がいのある人の支援ニーズに応じてきました。法人が現在取り組んでいる他法人に対するコンサルテーション事業は、大阪府全域での強度行動障害のある人を支援する支援者の支援力の向上と多くの強度行動障害のある人の福祉サービス利用ニーズに応えることを目的としています。

私ども法人の理念は、「地域に生きる」です。このコンサルテーションの取り組みは、大阪府下における多くの強度行動障害のある人に対する支援力・地域支援体制の底上げに繋がります。そして、その目的は、様々な障害があっても生まれ育った地域の中での暮らしを生涯にわたって支え続けることの実現にあります。

この実践を通して、確実に他法人・事業所・職員の皆さま、行政、関係機関との連携が広がり、深まっています。また、その連携と学び合いの中で、職員の成長を通して、組織の成長も図れています。

結びになりますが、日々真摯に利用者様と向き合い、ニーズベースの支援を積み上げている法人職員の皆さんの働きに感謝いたします。また、私ども法人の様々な支援実践、運営を支えて頂いている家族、関係機関・団体の皆様から御礼を申し上げますとともに、引き続きお支え下さいますようお願い申し上げます。

ひゅーまん

HUMAN

RELAY
リレー



自閉症の人の豊かな生活のために

ドリーム・ブライツ ドリーム・ブライツ・キッズ代表 ますたに さとこ
広島自閉症協会、副理事 増谷 聡子さんより

私が運営しているドリーム・ブライツは、2010年に‘自閉症の人たちに関わる保護者や支援者の勉強会’としてスタートしました。

保護者や支援者の人たちの話を聴けば聴くほど、家庭でどのように「自閉症のお子さんを育てたら良いのか分からない」、という声が多く、週末に県外の研修へ行っては学んだことを自閉症の息子のために実践し、会員の皆さんと我が子に合わせたスケジュールを作成したり、構造化について一緒に考えたり、学んだことを少しずつシェアしていました。

自閉症の特性に合わせた支援について学ぶと、子どもの行動の意味が分かり、‘自立して行動できるようになるんだ!’となりますが、幼稚園や学校で自閉症の特性に合わせた支援をしてもらえないというジレンマがありました。

そこで、ドリーム・ブライツ、キッズという‘自閉症のお子さんの余暇サークル’を立ち上げました。

コミュニケーションの難しさのあるお子さんがほとんどでしたので、お母さん方には、PECSレベル1のワークショップを受講していただき、広島西PECS (R)サークルも立ち上げました。

PECSサークルでは、いっしょにブックや絵カードを作り、家庭でできるようにロールプレイングなどをして、保護者の方たちをサポートしていきました。

それ以前は、私の自宅でお子さんたちを療育していましたが、人数が増えていったので、公民館などで、一番お母さんたちが大変な夏休みや冬休み、春休みに活動するようになりました。

親子で参加していただくことで、家庭だけでは気づけなかったことやなかなか実践に繋がらなかったことができるという実感を親子で体験していただくことがで

きるようになっていきました。

2012年ごろ、iPadが登場しました。

依然として、幼稚園や学校で自閉症のお子さんの特性に合わせた支援がしてもらえない、という声は続いておりましたので、お子さんがタブレットを使用できるようになることで、自らスケジュールやコミュニケーションを活用できるのではないかと考え、広島大学、人間社会科学研究科の研究室へ飛び込みました。

2014年頃から、発達障害者ICT活用研究のため、ドリーム・ブライツ、キッズと広島大学とで、共同研究をするようになりました。

そこで、学生さんや保護者さんが共同できるようにワークショップを開催しました。

自閉症のお子さんは、操作を教えると、すぐに使用できるようになります。

アプリを組み合わせ、お子さんの特性に合わせるため、学生さんと毎日、アプリを試しました。

そのころ、PECSIV+アプリが発売されました。

二語文ができていれば、カード作成も簡単にでき、すぐに使用ができるようになるのが、PECSIV+アプリのいいところですが、アナログのPECSブックも併用します。

保護者さんがタブレットを購入し、子どもに活用していく人が増えていきました。問題は、学校や事業所で使わせてもらえないということでした。

行政へも働きかけて、教育委員会へ意見を聞いていただき、学校へ足を運んでいただいたり、広島自閉症協会で「発達障害の人のためのICT活用」の講習をしたりしました。

私の息子が、特別支援学校、高等部3年生のとき、タブレット持ち込み第1号となり、学校のある限られた

時間のみではありましたが、少しずつ、学校でも使用されるようになってきました。

特別支援学級や通常級でも使用していただけるよう継続して教育委員会への意見をしていきました。

タブレットが使用できるようになったお子さんは、読み書きも進んでいくことがあります。

また、余暇が充実していくこともわかりました。

ゲームやYouTubeばかり視聴して困るという声もありましたので、講習のなかで認知を進めるようなアプリを紹介したりしました。

毎日1000近くのアプリが登場するので、どのようなアプリがあるのか毎日、試しては自閉症のお子さんに合いそうなものを使ってみたりしながら、障害のある人のためのICT研修にも積極的に参加し、オンラインでやりとりすることも自閉症の人に教えていきました。

そうしているうちに、コロナ禍となり、3月に休校となったお子さんの保護者さんたちもドリーム・ブライト、キッズや広島自閉症協会の講習会に参加されたりして、デジタル機器にある程度慣れておられたので、Zoomミーティングでのやりとりもスムーズに進みました。

デジタル機器に慣れておられない福祉事業所の人や保護者さんとも、Zoomの使い方を毎日練習し、繋がるできるようになっていきました。

保護者の人たちにもご協力いただき、お子さんの横に付いていただき、画面越しにゲームをしたり、画面共有し、ホワイトボードを使用してもらうことで、表出を

して貰うことができました。

このときほど、'備えあれば憂い無し'を実感したことはなかったと実感しています。

問題提起行動も、予防がとても大事だと、自閉症の人たちを通じて実感しております。

なにより、コミュニケーション手段があることで、問題提起行動が軽減していくことも親子で体験されているのを観てきました。

コロナ禍になってから、大学の研究室へ行くことがなくなりましたが、広島大学、人間社会科学研究科の非常勤講師のお話をいただき、特別支援教育に携わる学生さんたちや若い人たちの後押しができるよう学んでいくことを決意いたしました。

オンラインを通じて、自閉症の人のためのエビデンスのある学びを提供する勉強会、輪読会をすることで、全国の保護者や教員、福祉事業所の人たちと学び合いながら、自閉症の人のための支援が広がっていくよう頑張っています。

毎朝、clubhouse(音声SNSアプリケーション)では、一般の人たちに向けて「behavior modification(行動変容法)を読んでみて」というお部屋を開いて行動の原理や自閉症の人の特性を交えて、お話ししています。

自閉症の人の行動の理解や支援が進んでいくようにこれからも継続して、活動していきたいと思っております。



‘待つ’に応じ、ケチャップの要求



絵カード交換式コミュニケーションシステム (PECS)®

PECS®ってなに？

アンディ・ボンディ (Ph.D.) とロリ・フロスト (MS.CCC-SLP) によって開発されたコミュニケーション支援システムです。

PECSは6つのフェイズ(段階)から成り立っており、対象者が一枚の絵カードを“コミュニケーションパートナー”に渡すところから始まります。絵カードを渡されたコミュニケーションパートナーはすぐにその交換を要求として受け取り、要求を叶えてあげます。次に、絵カードの弁別(認識)を教え、そしてどのように文を構成するのかを教えます。さらに上のフェイズでは、対象者は修飾語を使ったり、質問に答えたり、コメントしたりすることを教わります。PECSの最優先の目標は機能

的コミュニケーションを教えることです。

研究の中では、PECSを使っている中で発語が出るようになった生徒もいることがわかっています。音声表出機器(SGD)に移行する方もいらっしゃいます。PECSがエビデンススペースの介入であり、PECSの効果を実証する研究は沢山発表されており、増え続けています。今現在世界中で150以上の研究が発表されており、PECSの効果を裏付けております。

ピラミッド教育コンサルタントオブジャパン(株)
オフィシャルホームページより抜粋
<https://pecs-japan.com/>

地域における包括的支援体制の構築をめざして

～地域連携を考えて～

株式会社コクリエ

就労継続支援B型事業所 コクリエ・ワークス ^{おく} ^の ^み ^{さと}
奥野美里さんより

私と杉の子会さんとの出会いは、約10年前。子宮頸がんの手術後、休職期間を経て会社に復職はしたものの、発達障害（ADHD）ゆえ、とんでもなく苦手な庶務の仕事に異動になり、自分の価値を見失っていた時期でした。NPO法人サービスグラントにプロボノ（仕事のスキルを活かしたボランティア／語源は「公共善のために」）として参加した時の支援先が、その頃ちょうどオープン予定だった「ララショコラ」のチラシやグッズの作成でした。

私は現在、グラフィック・ファシリテーションという、インタビューや話し合いをリアルタイムで文字やイラスト、図解で記録しながら、話を深めたり、一緒に考えていくサポートをするお仕事をしています。実は、「ララショコラ」さんへのプロボノ時代はそのまま、修業時代でもあり、実践で勉強させてもらえたなあと思い起こしています。

それから数年、私もグラフィック・ファシリテーターとして独り立ちしたころから、イベントやセミナーなどでお声がけいただき、今年3月の「アクトおおさか開設20周年記念セミナー」では、シンポジウムでゲストの皆様の対談をイラストと文字で記録するとともに、発達障害当事者としてもインタビューを受け、動画に登場させてもらいました。

こんなふうに関係が続く中で、あるとき、「グラフィック・ファシリテーションを相談援助で活用してほしい。大人数の場でだけじゃなくて、日常的な話し合いでこそ役に立つ技術なんですよ」なんて話をアクトおおさかの方に話してみたら…、アクトおおさかの職員研修に取り入れてくださって。大学院で研究し、きいて（聞いて／聴いて／訊いて）、かく（書く／描く）プロセス、話す人と聞く人が横に並ぶフラットな構造、共同生成される言葉と時間そのものに、

「わかりやすい記録」以上の価値があると、この手法に希望を見てくださいただと、力を得た気持ちになりました。

グラフィック・ファシリテーションは、受けとめて、整理し、目に見える形でフィードバックしていくことで、話し手自身が、自分の価値や価値観、大切にしている、でもまだ言葉になっていない思いを、言葉へと変換していくお手伝いするツールなのかなと感じています。その中で、聞き手自身も考えが深まり、整理されていくため、実はたくさんの人に話を聞いている私自身がいちばん、その恩恵を受けているのかもしれませんが。共に言葉を紡ぐ時間は、お互いがお互いの人間性に関心を寄せ合うため、支援／被支援を越えた関係性をつくりやすいのではないのでしょうか。

実は私は、子宮頸がんの治療の影響で、腎臓疾患や下肢リンパ浮腫を患い、また、発達障害（ADHD）もあるので、重複障害という状態にあります。腎臓疾患が一気に悪化した昨年、ライスワークでもありライフワークでもあるグラフィック・ファシリテーションという仕事を、1日でも長く続けるために、ヘルパーさんや訪問看護師さんを頼ろうと決断しました。そして、契約のときにこの思いを伝えさせてもらったんです。本当のところ、こういった支援を受けることに抵抗もありました。病気や障害のラベルの中に、自分自身が埋没してしまうような不安があったのです。でも、実際には…、1日でも長くこの仕事を続けるという私の目的に向けて、一緒に戦う仲間ができたように感じています。そして一方で、もし私が、具体的にしてほしいことだけを伝えていたら、このような関係を持てたのかなとも考えるのです。

この原稿を書いている最中に、2つの、とても印象深い話を聞きました。ひとつは、リハビリテーションの語源について。もうひとつは、ヘルパーさんがブルージーンズをはかない理由について。何かこう、私が支援に求めているものが、時間差でつながったイメージでした。

前者は、看護師をしている友人と、支援するとかされるとかの話をしていた時、ふと教えてくれたこと。「リハビリって手軽にいうけど、実は『人間であることを取り戻す』っていう意味なんやで」と。語源は、ジャンヌ・ダルクの死後に行われた、「彼女は魔女ではなく人間だ」としたリハビリテーション裁判でした。「だから、リハビリは、その人らしい生活、したいことを取り戻すことを目指さない」とね。

後者は、いつも来てくださっている、ケアマネ資格を持つヘルパーさんと世間話をしているとき。ヘルパーさんは、ショートカットか、後ろでくるヘアスタイルになるとか、支援中はフードのある服を身に着けないというのは、その仕事内容を考えると自明の理なんですけど、もうひとつ、「ブルージーンズははかないんですよ」とおっしゃるのです。その理由を聞いてみると、「私たちは支援に行っているのだから、作業に行っているのではないんです。ブ

ルージーンズはもともと作業着でしょう?」と。

このおふたりから私は、それぞれの看護哲学、介護哲学—支援哲学のようなものを感じました。支援／被支援の関係は、支援者が被支援者の生活を支えるゆえに、意図せずとも簡単に、支配／被支配に変わる構造です。だからこそ、支援者には、ひとりの人間としての被支援者を尊重する、強い哲学が必要で、そんな哲学に触れたとき、支援される人はやわらかく、支援される自分を受け入れていくことができるのかもしれないと感じました。

私は今、さまざまな場で対人援助をされている方々に向けて、日常的に気負わず使い倒せる小さなグラフィック・ファシリテーションについての書籍を執筆しています。書く書くサギと言われるほど遅々とした歩みですが、支援されることも多い私だからこそその視点を、ギリギリまで取り込みながら、悩み迷いながら、書き進めています。「なぜ?」につながる介護や看護のビジョンが、イメージとして、福祉サービスの受け手、担い手に共有されることで生まれるエンパワーを、私自身が感じているからこそ、届けたいと思っています。でも、関心を持って待っていてくれる人がいないとがんばれない私…。皆さんからもエールをもらえたらとてもうれしいです。



グラフィック・ファシリテーションの様子



アクトおおさか開設20周年記念セミナー
(奥野様紹介時)



アクトおおさか開設20周年記念セミナー (シンポジウムの様子)

誰にでも役割(仕事)があり、居場所がある ～ 障がいのある方のその人らしい働き方を考える ～

ジョブジョイントおおさか たかつきランチ
生活支援員 ^に ^い ^だ ^た ^か ^こ
新井田 卓子

はじめに

11月11日(土)、高槻市立生涯学習センターにて北摂杉の子会セミナー「発達障がいのある方のディーセントワークを考える～誰にでも役割(仕事)があり、居場所がある～」を開催いたしました。北摂杉の子会セミナーは、開催を通して参加者皆で「障害福祉の未来を考える」機会とすることを目的とし、北摂杉の子会で取り組んでいる「発達障がいのある方を支える実践」をシリーズ化して企画しています。昨年度から年1回開催しており、第2回の今回は法人として大切にしてきた「ディーセントワーク」について皆さんと一緒に考える機会になればと思って、「働く」をテーマとして開催しました。

基調講演について

前半の基調講演では埼玉県立大学名誉教授の朝日雅也先生より、「障がいのある方のその人らしい働き方を追求するーディーセントワークの実現を通してー」というテーマについて話をお聞きました。私自身、就労移行支援に携わっていると「働く」ことについて考える機会は多く、朝日先生のお話を聞いて日々の支援と重なるところもたくさんあり、自分の支援について振り返る良い機会になりました。障がいのある方の働き方にもいろいろな形があります

が、サポートをする立場として「ディーセントワーク」の考え方は忘れず心に留めておきたいと改めて感じました。朝日先生のお話は大変分かりやすく、基調講演はとても充実した時間で、1時間半があつという間に過ぎていきました。



実践発表について

後半は3事業所からの実践発表を行いました。ジョブジョイントおおさかからは、2つの就職事例を紹介しながら「本人らしく働くための就労支援」について発表しました。私からは、定着支援を担当している方について話をさせていただきました。就労移行支援を利用時から担当として一緒に就職活動を進めてきたこともあり、ご本人の真面目で前向きな姿勢にいつも元気をもらっています。発表資料を作る過程で一緒に取り組んできた内容を振り返ると、ジョブジョイントおおさかを利用して就職し、

現在に至るまでにご本人もいろいろな場面でたくさん努力をされ、成長されてきたことを改めて感じました。自分自身やチームで取り組んできた支援を振り返ることに加え、ご本人の強みや長所を再確認するという意味でも、支援者としてとても良い機会をいただきました。

また、ジョブサイトひむろの松本さん、LaLa-chocolat TAKATSUKIの中田さんの発表もお聞きし、事業所によって皆さんいろいろな働き方をされていると感じました。お仕事や働き方はいろいろですが、好きなことや得意なことを活かすことで、その人らしく働くことができていると素敵だなと思いました。普段あまり関わることのない他事業所の様子や取り組みについて知ることもでき、大変勉強になりました。



さいごに

今回の北摂杉の子会セミナーは、会場にお越しくださった方、アーカイブで視聴してくださった方を合わせると、およそ100名の方にご参加いただきました。主に支援者の方が多く参加してくださいましたが、なかにはご家族や当事者の方もいらっしゃり、様々な立場の方と一緒に「ディーセントワーク」について考える機会になったのではないのでしょうか。私自身、普段から「働く」ことに関わる仕事をしていますが、朝日先生の基調講演や各事業所からの実践発表を聞き、「ディーセントワーク」について改めて考え、振り返る貴重な時間になりました。

ご登壇いただいた朝日先生やセミナー参加の皆様とこのような時間を共有できたことを、大変嬉しく思っています。来年もこのように皆様と一緒に「障害福祉の未来を考える」機会として、北摂杉の子会セミナーに参加できることを楽しみにしています。

ディーセント・ワーク (Decent Work)とは?

ディーセント・ワーク(働きがいのある人間らしい仕事)は、1999年に国際労働機関(ILO)において21世紀のILOの目標として提案される。

障害のある人たちのディーセント・ワークとは?

- 権利の主体者・働く主体者であること
- 地域社会での暮らしが提供されること
- 社会から認められる役割があること
- 「働けない」ことを「障害の問題」にしないこと
- 合理的配慮がなされ、「強み」が発揮できる環境が提供されていること
- ニーズに応じた様々な働きが実現できること
- 働きに応じた正当な賃金が得られること
- チャレンジできる、学習できる環境が提供されていること

2013年 B型事業所におけるディーセント・ワーク
研修事業報告書より



5年間続けたジョブジョイントおおさか 実践報告会の取り組み

ジョブジョイントおおさか たかつきランチ
主任 ^{やま}山 ^{もと}本 ^{のぞみ}望

■ はじめに

ジョブジョイントおおさかは2011年に大阪府淀川区十三で事業所を開設し、2013年にはたかつきランチを開設しました。年々就職者は増え続けており、2022年度までに就職者は180名となっています。また、ジョブジョイントおおさかは全国にある就労移行支援事業所の中でも就業1年後の定着率や一般企業に就職する移行率は高く、(就業1年後の定着率：全国平均71.5%・ジョブジョイントおおさか90%/一般企業への移行率：全国平均52%・ジョブジョイントおおさか約90%) 社会福祉法人として、その実践内容を地域に発信する役割を感じました。

そこで、ジョブジョイントおおさかが具体的に「どのようなプログラムを行っているのか」、「どのような支援を行っているのか」、「どのようなことを大切にしているのか」等の実践を地域に向けて発表する場として、2018年度より実践報告会を開催することとなりました。

■ 実施内容

実践報告会では発達障がいの専門家の方から基調講演をして頂いた後、ジョブジョイントおおさかの就労移行支援事業の利用を経て就職された方に登壇して頂き、ご自身の取り組みを発表して頂いています。

「自立訓練事業と就労移行支援事業の利用を経て就職された方」・「離転職を経て就労移行支

援事業を利用し希望職種に就いた方」・「プログラムに取り組む中で自分の得意なことを見つけて就職に結びついた方」・「企業開拓を行う中で障がい特性の理解とご本人の人柄の良さを企業の方が感じて就職された方」など、様々な方に発表して頂きました。

実践報告会の内容は以下の通りです。

- ① 基調講演(約60分)
- ② ジョブジョイントおおさかの実践報告(約20分)
- ③ OBOGからの報告(約20分×2～3名)
- ④ 質疑応答(約30分)

※登壇者とテーマ：12ページ参照

■ 実施後の効果

① 地域に実践を共有する

ジョブジョイントおおさかには北摂杉の子会の行動指針と併せて、独自の行動指針があります。ジョブジョイントおおさか独自の行動指針には「ご利用者の働きたいを形にします」・「希望によりそう支援をします」・「長所をみつけ伸ばしていける支援者になります」等があり、発表して下さる卒業生はどの方も行動指針を実践に活かし就職に結びついた方ばかりです。

また、ジョブジョイントおおさかは上記の行動指針に基づいて①ご本人の希望や障がい特性に合わせた「個別支援」、②様々な経験ができる「プログラム運営」、③ご本人が働きやすい環境を見つ

ける「企業開拓」の3点にも力を入れています。

ジョブジョイントおおさかが大切にしている就労支援におけるたくさんの方の大切なポイントを、卒業生を通して、企業の方・支援機関の方・ご家族・当事者の方へ具体的にわかりやすくお伝えしました。

② ご本人と企業の方の登壇

実践報告会では毎回2～3名のジョブジョイントおおさか卒業生に登壇して頂いています。

登壇していただく方には、ジョブジョイントおおさかを利用して役立ったこと・就職活動のこと・就職後のことについて話をさせていただきました。

実際にご本人から話をさせていただくことで、ご本人のその時々のお気持ち・希望を中心に話ができて、うまくいったことはもちろんうまくいかなかったことも率直に話をいただいています。参加者の方からは「とても参考になった」という声を多く頂きました。また、ご本人の人間性が会場の雰囲気をも和やかにしてくれることも多くありました。

そして、就労支援を行う上で、企業と協働することは大変重要です。実践報告会では、福祉側の視点の発表だけでなく、就職先の企業の方にも登壇して頂きました。登壇が難しい場合はインタビューを事前に受けて頂き、そのコメントをスライドや動画でお伝えしました。障がいのある方を雇用してよかったこと・難しかったこと・工夫したことなど、企業側の率直な感想を話して頂くことで、参加者の方には具体的に障がい者雇用の良い点や工夫の仕方、支援機関とのつながりの持ち方など、イメージしていただくことができました。

③ 専門家に基調講演と講評を頂く

実践報告会では基調講演の時間を1時間ほど設けており、発達障がいの専門家に登壇して頂いています。クリニックの医師、児童精神科医、心理士、大学の先生にご登壇頂き、発達障がいと就労を基本テーマとしながら、色々な視点で基調

講演をしていただきました。

また、実践報告会の後半には専門家の方から直接、ジョブジョイントおおさかの取り組みに対する講評を頂いています。専門家の方から直接講評を頂くことで、支援が自己満足にならず、支援をする上で大切な点をより明確に理解することが出来ます。また、専門家の方から支援内容について直接コメントを頂けることは、スタッフのモチベーションアップや育成にもつながっています。

④ 理念の発信で仲間を増やす

実践報告会で基調講演を依頼した大妻女子大学の縄岡先生から、縄岡先生が主催する研究に声をかけて頂きました。さらに、今年度は縄岡先生が翻訳に関わった就労支援のアセスメントツールBWAP2を導入することになりました。BWAP2を導入することで、アセスメント力がアップし、就職する上でサポートが必要な点が数値を通して明確になります。実践報告会を開催することで、発達障がいのある方の就労支援を熱心に行っている仲間が増え、さらにそのつながりを通して、ジョブジョイントおおさかの支援力向上にもつながりつつあります。

<参加人数・アンケート結果>

- 参加人数は延べ448名です。新型コロナウイルス流行以降、直接会場に来られる方の人数は減りましたが、平均80名程の方が参加されています。
- アンケート結果では「大変満足」「やや満足」の方が8割以上となっており、参加者の皆さまからの満足度はとても高くなっています。
- 実践報告会の運営についての満足度も高く、「気持ちよく参加できた」という意見も多く頂きました。報告内容はもちろんですが、運営スタッフの様子からも、JJの雰囲気を知って頂くことができたのではと思います。

※アンケート結果：次ページ参照

■ 今後の展望

これまで、ジョブジョイントおおさかでは実践報告会を5回開催しました。実践報告会を行うことで、ジョブジョイントおおさかが就労支援を行う上で大切にしていること、そしてそれを実践にどのように活かしているかを、障がい者雇用に取り組む企業の方、地域の支援機関の方、発達障がいのある

当事者の方やそのご家族にお伝えしてきました。

小さな取り組みかもしれませんが、毎年実施することで少しでも発達障がいのある方の働く場が増え、働きやすい地域作りにつながればと思っています。今後も開催を続け、ジョブジョイントおおさかの実践の発信を続けていきます。

実践報告会の取り組み 登壇者とテーマの一覧

回	日時	場所	基調講演（講師/テーマ）	JJ取り組み発表	登壇者	参加人数
第1回	2019年1月20日 13:00～16:30	高槻市商工会議所	自閉症eサービス代表 中山清司氏 「自閉症の理解と就労支援」	ジョブジョイントおおさかの 就労支援プログラム	卒業生 加藤さん・㈱ジョリゾーム経営戦略部部长井上様 卒業生 山崎さん・東京海上ビジネスサポート㈱大阪支社長亀井様	105名
第2回	2020年1月29日 13:30～16:30	高槻市商工会議所	大妻女子大学 共生社会文化研究所 福岡 好晴氏 「発達障がいのある方の企業就労」	ワークサンプルを用いたアセスメント	卒業生 堤さん 卒業生 安達さん	94名
第3回	2021年3月20日 13:30～16:30	高槻市生涯学習センター (オンライン配信あり)	医療法人いちえ理事長 有希クリニック院長 鬼頭 ともよ氏 「地域医療と発達障がい」～有希クリニックの取り組みを通して～	自立訓練の取り組み	卒業生 天瀬さん・㈱エムツープレストリーダー沖本様 岡本スタッフ：ベルシステム24での取り組み	会場19名 WEB 100名
第4回	2022年1月15日 13:30～16:30	大阪市立青少年センター KOKO PLAZA (エクスプレス・ココ)	よこはま発達クリニック 心理士 佐々木 康栄氏 「発達障がいの特性理解～就労支援に期待すること～」		卒業生 浜田さん・城野寝具㈱取締役社長城野様 卒業生 綿部さん 卒業生 鶴澤さん	59名
第5回	2023年1月25日 13:30～16:30	立命館いばらきフューチャープラザ	医療法人仁誠会 大湫病院 岡 正樹先生 「発達障がいのある人が自分らしく社会人生活を送るために～ネットやゲームの世界と動機付けの話も交えて～」	OB会の取り組み	卒業生 丸茂さん・㈱ハンワ取締役経理部部长元木様 卒業生 堀さん・㈱ナリコメンタープライズ植田様	71名

第5回実践報告会アンケート結果 (1満足しなかった～5とても満足した)

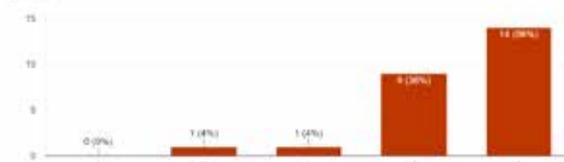
基調講演（発達障がいのある人が自分らしく社会生活を送るために）の満足度をお聞かせください。
25件の回答



実践報告②（お二人の就労事例）の満足度をお聞かせください。
25件の回答



実践報告①（就職後の余暇支援の取り組み）の満足度をお聞かせください。
25件の回答



本報告会の全体運営について、満足度をお聞かせください。
25件の回答



【自由記述欄に頂いた感想】

- ・現在に至るまでのプロセスを当事者の方や周囲の支援者の言葉と映像で拝見させていただくことで、より理解が深まった。
- ・日常、マイナスで表現されていることを違う表現でされていて、出来事の違う見方をする大切さを改めて認識できた。こんなにも感動した公演は初めてでした。
- ・その方らしさがよく伝わる発表で、非常に参考になった。今回は就職意欲のある方が取り上げられていたが、就職意欲のなかった方の事例もあると、より支援の幅や深みが理解できるように思った。

◆ 特別連載企画 ◆

元・前障害者虐待防止専門官と語る 障がいのある方の権利擁護虐待防止トークセッション⑥

2022年8月6日(土)に元厚生労働省障害者虐待防止専門官の曾根直樹氏(日本社会事業大学准教授)および前厚生労働省障害者虐待防止専門官の片桐公彦氏(社会福祉法人みんなできの 理事)をお招きし、障がいのある方の権利擁護虐待防止をテーマとしたトークセッションをオンラインで開催いたしました。当日は全国からたくさんの方々にご視聴いただき、ありがとうございました。

その内容を全7回に分けて機関紙「地域に生きる」に連載しております。(6回目/7回中)

人材育成についての現状と課題

【北摂杉の子会理事長 松上利男(以下、松上)】

もうひとつは人材育成の問題ですね。行動障害の人たちが被虐待者になるリスクが高い。これは変わってないんですよ。いまだに、被虐待者のうち30%以上の割合。それで強度行動障害支援者養成研修ができましたが、なかなか事業所の中で汎化できない・組織的な人材育成が出来ていないという実態がありますので、これからの人材育成のあり方を検討していこうということなんです。曾根さんは、今後の人材育成の形はどうあるべきだと思いますか？

【元障害者虐待防止専門官 曾根直樹氏(以下、曾根)】

ひとつは松上さんもおっしゃった、スーパービジョンがしっかり働く体制をつくるということは重要なことだと思います。研修受けても、現場でそれをやるというのはまた別の話になりますから。現場で導入した時にアドバイスを受けられるってような体制を作るというのは重要なことだと思います。あともうひとつは、それがあっても、受け入れない事業所問題はどうかということがもう一方でありま

す。これまでは競争原理がすべてを解決していくというふうに、わりと楽観的に思っていたところがあったと思うんですね。要するに、質の低い事業所は淘汰されて、質の高いところが残っていくと。だけど、実際は平均点が下がってしまって、質の高い事業所、北摂杉の子会みたいなのところもあるんだけど、割と質が低い状態でたくさん増えているような印象があって、ここをどうやって引きあげていくことができるのかということを考えなくてはいけないんじゃないかなと。そのためには片桐さんも言っていた、サービスという考え方から、松上さんがおっしゃっていた公共財というか、地域の負託を受けてやっているというような事業に対するイメージの転換と、職員教育というのをリンクさせていく。だから、理念をしっかりと伝えていくってということ、自分たちが何のために、この仕事をしているかという事をしっかりと伝えるということが必要なのかなと思うのがもう一つですね。あともう一つは、仕組みの話になってしまい恐縮ですけど、行動関連項目10点以上一律同じ加算というのは、もう限界なんじゃないかな。やはりそこからさらに、行動関連項目が高い人に対して、もう一段手厚い支援ができるような報酬体系をつくっていかないと、どんなに勉

強して経験を積んでもある程度少人数で支援するという環境がないとなかなかうまくいかないというのは、現実的にあるんじゃないかなと思うので、そのような制度的な課題。あともう一つ、事業所が断らないためにどうするかですけど、ひとつは市町村障害福祉計画を作ってますよね。障害者総合支援法に基づいて基本指針が示され、それに基づいて計画を作ってるわけなんですけど、その中で、行動障害のある人の人数は統計として出されていないんです。療育手帳を持っている人や身体障害者手帳を持ってる人、あるいは精神保健福祉手帳を持ってる人の人数は出てきますが、行動障害のある人の人数は載っていません。でも、これは結構簡単に出せるのではないかと思います。認定調査の時に行動関連項目の評価をしているわけですから、そこを再集計すれば、我がまちに行動関連項目の何点の人が何人いるか、という数字は多分出ると思うんですよ。そうすると、その人たちが今必要なサービスを受けられているかという事を点検して、その人たちをよその街の事業所に任せて終わりにするのではなくて、自分たちの街の中でどうやって受けていけるかということをしっかり考えることが必要ではないかと思います。

【松上】 片桐さんはどうですか？

【前障害者虐待防止専門官 片桐公彦氏 (以下、片桐)】



人材育成のところで言うと、強度行動障害支援者養成研修の敷居を少し下げて「0年0ヶ月」というコンセプトを支持してくれる人もいましたが、実はかなり怒られたんですね。それで、もうひとつ上の上位研修を作らないといけないということを随分と言われたんですけども、当時の国の立場としてもなかなか難しいだろうなと思っていて、考えたのはやっぱりコンサルテーションなんですね。それを、なんとか制度化するための研究というのも3年くらい前から始めて、今も継続されてるんですけども、要はどういうキャリアを積んで、どういう研修を受けていくと、スーパーバイズできるような人材になるのか、それを地域の中で、どれだけたくさんつくっていけるか、という研究です。当時、専門官やっていた立場としても、やっぱりコンサルテーションの仕組みというのを本気で受け入れるべきだし、いま民間にいる立場としても、コンサルテーションの導入を進めていく事に加え、それを担う中核的な人材を育成するというのが自分のひとつの優先的な課題かなと思っています。この辺りは、平野さんにもお話を聞いてみたいと思っています。

【北摂杉の子会理事 平野貴久(以下、平野)】

大阪府から委託を受けまして、大阪府重度知的障害者地域生活支援体制整備事業をやらせていただいています。大阪府内の6圏域で手を挙げていただいた法人様のほうに訪問させていただいています。一番の目的は何かと言いますと、その地域の中のコアとなる人材の育成ということですね。それぞれの圏域のコアになるような人材をコンサルテーションに3年間入ることによって、育成していく事業になります。グループホームの非常勤スタッフの専門性の向上には難しい部分あるんですけども、グループホームで暮らしながら地域生活を実現できるような人材を育成していきたいと思っています。私どもレジデンスなさはらの3人の職員で受けまし

て、今大阪府内6個所回らせていただいて、人材育成の研修をさせていただいています。実際にそれぞれの地域の特色とかもあるんですけど、一番嬉しかったのは、ある大阪府南部の方の事業所さんから、できれば特性理解や構造化の研修をして欲しいという依頼が来た時、行政の福祉課の方も参加されたり、会場も貸して下さったり、近隣の事業所さんが数カ所参加して下さる等して

一緒に研修ができたということがありました。そういうことがこの事業の目的なんだろうと感じましたね。強度行動障害と言われている方を、県立の施設とか府立の施設で受けるのではなく、地域の法人さんと協力しながらそれぞれの身近な地域のグループホームで受け入れていけるような人材を育成していくことを目指してやっています。

●トークセッションのダイジェスト版を北摂杉の子会 YouTube チャンネルにて配信しております。是非、ご視聴ください。

前編 : <https://www.youtube.com/watch?v=ZkUx79IjA9A>



後編 : https://www.youtube.com/watch?v=spyc1__mr4c



掲示板コーナー

(令和5年9月から令和5年11月まで)

法人事業部 掲示板

9月	行 事
6日	法人事業部管理会議
	医療連携推進室会議
8日	第4回新入職員研修 「メンタルヘルスケア・ハラスメントについて」
8・22日	運営会議
11・25日	経営会議

10月	行 事
4日	法人事業部管理会議
	医療連携推進室会議
6日	第5回新入職員研修 「権利擁護、虐待防止について」
6・20日	運営会議
10・23日	経営会議
21日	マイナビ梅田 介護福祉インターンシップ合同説明会
26日	権利擁護虐待防止委員会

11月	行 事
1日	法人事業部管理会議
6・20日	経営会議

11月	行 事
10・24日	運営会議
10日	医療連携推進室会議
	令和5年度 第3回法人研修・ 北摂杉の子会セミナー2023・内定者研修 「誰にでも役割(仕事)があり、居場所がある～障 がいのある方のその人らしい働き方を考える～」 基調講演「障がいのある方のその人らしい働き方を 追求する～ディーセントワークの実現を通して～」 埼玉県立大学名誉教授 朝日 雅也氏 北摂杉の子会 実践報告 「それぞれの『働く』」 「得意を発揮できる働き方～安心してチャレンジでき る環境を目指して～」 「本人らしく働くための就労支援～2つの就職事例 を通して～」 朝日氏と登壇者による意見交換
11日	
27日	第149回理事会 第1号議案 定款変更の件 第2号議案 諸規則・規程類の改正の件 第3号議案 理事長執行状況報告 第4号議案 事業計画進捗状況の報告 第5号議案 補正予算案および4～9月決算の件 第6号議案 各プロジェクト報告の件 第7号議案 事業計画進捗状況の件

(松本 記)

マイナビ梅田 介護福祉インターンシップ合同説明会



北摂杉の子会セミナー2023



内定者懇親会



ハロウィンイベント

お化けやカボチャのイラストを飾って、ハロウィン気分を味わいました！



音楽サークル

鳴子をもって、演奏されました♪ マイクをお渡しすると、楽しそうに歌われました



(川村 記)



日帰り旅行2023



どうぶつ王国コース



どうぶつ王国ではたくさんの動物達との距離の近さに驚きながら、背中を撫でたり交流にチャレンジしました。初めてのドクターフィッシュにチャレンジした方もいて、ドキドキしながらも独特な感触が癖になったかもしれません。その後は遊覧船に乗り、ゆらゆらと揺れながら海風に当たって、気持ちの良い航海の時間を楽しみました。



中華街コース

中華街コースはまずアトアという水族館に行き、アーティスティックで幻想的な世界を夢心地に体験しました。昼食は中華街で円卓に座って食べる本格的な中華料理に舌鼓をうち、工房に移動してマカロン制作に取りくんだ後は、中華街を散策して食べ歩きしたり、お買い物を楽しんだり、それぞれの楽しみ方に合わせた観光スケジュールで散策を満喫しました。



和歌山コース

和歌山コースは最初にみんなで梅シロップを作りました。瓶に材料を入れた後は持ち帰って各自で大事に育て、飲む瞬間までワクワクが続く貴重な体験となりました。昼食はとれとれ市場でしらす御膳を食べ、美味しい海鮮を堪能しました。ポルトヨーロッパでは異国の風景の中お買い物をしたり、遊園地組は色々な乗り物を思い切り楽しんだりして、和歌山を最後まで堪能しました。

(井上 記)

大阪府発達障がい者支援センターアクトおおさか主催 令和5年度支援者対象基礎理解セミナー

令和5年9月8日（金）に大阪市立住まい情報センターにて、支援者対象基礎理解セミナーを開催しました。講師には武庫川女子大学心理・社会福祉学部心理学科 教授である新澤伸子先生をお招きし、「知ることから始めよう みんなでつながるために～自閉スペクトラム症の理解～」というテーマでご講演いただきました。当日は、教育機関・相談機関・就労支援機関など、幼児期から成人期までの幅広い支援者の皆様148名にご参加いただきました。ご講演では、ASDの脳の情報処理の仕方（学習スタイル）と、それらの強みを活かした支援の視点や環境調整の重要性についてご説明いただきました。また、各ライフステージの支援における大切なポイントにも触れていただきながら、切れ目のない支援のためには機関間の共通言語として特性の理解が必要不可欠であるというお話をしていただきました。

セミナー終了後のアンケートでは、「大変参考になった」「参考になった」という感想が10割を占め、言葉ではASDのことは知っていたが特性の部分について具体的に知れた、個別性のアセスメントを行うためには特性理解が大切ということに気づけた、といった声が数多く聞かれました。また、各ライフステージの支援における大切なポイントについて知ることによって先を見通した支援ができそうだという声や、点から線、線から面の支援への広がりを持っていくことが必要だと思ったという感想も見られました。本セミナーで得られた学びや幅広い視点を、参加された支援者の方々の今後の支援に活かしていただけることをアクトおおさかとしても期待しております。ご講演いただいた新澤先生、当日ご参加いただいた皆様、ありがとうございました。



日本発達障害学会第58回研究大会での発表

11月4日・5日に京都教育大学で開催された日本発達障害学会で、H28～R2年度に大阪府より委託を受け実施していた大阪府発達障がい者地域支援マネージャー事業（以下、地マネ事業）についてポスター発表を行いました。「人口規模による地域事情の整理と地域特性に応じた効果的なコンサルテーションの検討—大阪府発達障がい者地域支援マネージャー事業の取り組みを通して—」というテーマで、武庫川女子大学の新澤伸子先生と共同で発表させていただきました。

地マネ事業は、地域自立支援協議会を軸とした障がい福祉関係部局における支援体制の機能強化のための市町村コンサルテーションです（現在は後継事業の発達障がい者地域支援力向上事業を実施中）。研究では、人口規模による地域事情の整理と地マネ事業

の成果をまとめ、広域を担うセンターとして市町村支援を行う際に重要となる指針を検討しました。この指針は現在実施している後継事業でも重要な役割を果たしています。

発達障害者支援法の改正ポイントに「地域の身近な場所で受けられる支援」と明記されていますが、当事者の方やご家族のニーズに応じた適切な支援を地域で受けることはまだまだ難しい状況にあります。また大阪府の特徴として、市町村の人口規模や既存の社会資源の有無など地域課題も大きく異なります。そのため、発達障がい児者支援における市町村格差が生じないように、人材育成やネットワーク構築などの支援体制の整備において、発達障がい者支援センターは重層的な支援を行うことが求められており、多くの市町村も継続したコンサルテーションを強く希望しています。継続的に市町村支援を行える府域の体制を今後も大阪府と協働で維持できるように、アクトおおさか職員一同精進していきたい!と熱く再確認できた2日間でした。研究発表に伴い様々のご助言を頂きました新澤先生、ありがとうございました。



令和5年度大阪府ペアレント・メンター事業 交流会&スキルアップ研修

大阪府では、発達障がい児者のご家族への支援体制の充実を図るため、平成26年度から大阪府ペアレント・メンター事業を実施しています。この事業では、発達障がいのお子さんを育ててこられたペアレント・メンターを市町村等に派遣し、子育てに関する経験談の紹介や、親目線での情報提供を通して、発達障がいのお子さんがいらっしゃるご家族をサポートしています。

本事業の事務局であるアクトおおさかは、メンターの方の声を参考にさせていただきながら、メンターの方向けの研修や交流会のプログラムを毎年検討・実施しており、今年度は令和5年11月18日（土）に、交流会とスキルアップ研修を開催いたしました。

午前の交流会では、メンターの方同士でメンター活動についてざっくばらんに意見交換や情報共有をしていただき、午後のスキルアップ研修では、講師に大阪大学キャンパス



スライフ健康支援・相談センター准教授の望月 直人先生をお招きし、実際の活動場面を想定した演習を実施しました。今後もメンターの方に安心してご活動いただけるよう、研修の企画やサポートに努めて参ります。望月先生、ご参加いただいたメンターの皆様、ありがとうございました。

児童発達支援部

a n



お箸の練習中



スタッフとポウリングであそびました!



手順を見てピザを作っています

Link



枚方市発達障害親の会
ポレポレネットワークさんと
Linkが共催し、啓発研修を実施しました



おともだちといっしょに
ミニパフェをつくったよ



おともだちと順番交代で
ゲームをしたよ

Will



いつも同じものしか食べないという
偏食のAちゃん(写真右)



隣で食べているお友達の
おやつが気になる...



おいしそうに食べているお友達を見て
Aちゃんも要求し、初めてのおやつを
口にすることが出来ました!

豊中市立児童発達支援センター[通所部門]



ハロウィンパーティー♪



親子遠足@万博公園



遊具にチャレンジ!

(横山・瀬川・新谷・宮脇・久保田 記)

ジョブサイトよど/ジェイ・ブランチよど掲示板



ジョブサイトよど

クッキング♪



秋季レクリエーションに行ってきました！



ジェイブランチよど

日帰りレクリエーションに行きました！

関空

「ラピートに乗って関西国際空港に行く」コースと「神戸の水族館 atoa に行く」コースの 2 つから行きたいところを選んで参加していただきました。



水族館



(西澤・桑田 記)

ふれいすBe 掲示板



お出かけ



エキスポシティの観覧車♪

コッパン専門店へ買い物



ハロウィン



ヴィックドクイーンに仮装

ロツォに仮装

今城塚古墳青空エアロビ



収穫祭



(竹内・CC辻内・八木 記)

ジョブジョイント (JJ) おおさか・ジョブジョイントおおさか -たかつきランチ- 掲示板

9月	行	事
4日	企業実習 (幼稚園での清掃) 大人の社会見学 (阿倍野防災センター)	
9日	先輩のはなし・企業実習報告会	
11日	企業見学会 (パン工場の製造)	
12日	企業実習 (薬局での事務)	
19日	スーツデイ (十三オフィス)	
10月	行	事
12日	企業見学会 (科学メーカーの清掃 / 軽作業事務)	
14日	土曜クラブ / OB 旅行 (福井県)	
17日	スーツデイ (十三オフィス)	
23日	企業実習 (介護施設の清掃)	
24日	企業見学会 (保険業界の特例子会社)	
11月	行	事
13日	企業実習 (スーパーの品出し)	
10日	ご利用者健康診断 (高槻オフィス)	
18日	土曜クラブ / 働くチカラ PROJECT (インターンシップ報告会)	
21日	スーツデイ (十三オフィス)	
29日	ご利用者健康診断 (十三オフィス)	

(岡本 記)

①阿倍野防災センターの見学

自立訓練のプログラムとして、阿倍野防災センターの見学・体験を行いました。防災センターの中では、消火器体験や震度7を体験できたり、体験を通して災害・防災について学ぶことができました。災害についての体験や映像などを見ていると、ご利用者の皆さんも「怖い」と感じておられましたが、「怖いけど、対策や気を付けるべきことを知れてよかった」とも仰っておられ、印象に残るよい経験になったと感じています。



②体験実習

(一社)ソーシャルギルドに3名のご利用者が実習に行かれました。ソーシャルギルドさんは「若者と共に、身近な暮らしから持続可能な社会を実現する」をモットーに活動され、子供服などのリユースのイベントなどを開催しています。3名とも初めての実習で緊張されていましたが、会社の方が明るく接してくださったので、みなさん安心して職業体験をすることができました。子供服をたたんだり、ハンガーの仕分け作業を行ったりと、コツコツと取り組んでいました。「作業がわかりやすくよかった」と参加されたご利用者からも感想がありました。今後も様々な実習へ行く中で、就職活動につなげていけたらと思います。



③OB旅行

ジョブジョイントおおさかから就職したOBOG皆さんと一緒に、福井県へ温泉旅行に行きました。1日目は恐竜博物館で大迫力の恐竜たちを見て、その後はあわら温泉の旅館へ！美味しいご飯を食べ、温泉にも浸かり、ゆっくり過ごせました。2日目は温泉街をぶらぶら。お土産を買ったり、足湯に浸かったり各々好きなように過ごされました。コロナ禍から3年ぶりのOB会旅行、皆さんと一緒に行けてとても楽しい2日間になりました。



LaLa-chocolat TAKATSUKI 掲示板



いつもご愛顧賜り、誠にありがとうございます。
 ララショコラは10月21日に8周年を迎えました。
 皆さまに支えられ、8周年を迎えることができ感謝の気持ちでいっぱいです。
 地域の皆さまに愛されるお店作り・ご利用者もスタッフも楽しく働ける事業所作りを大切に、
 みんなで頑張りたいと思います。今後ともどうぞよろしくお願いたします。

アニバーサリーパーティーを開催して8周年をお祝いしました♪



冬商品の製造がんばっています！ 市役所花壇の植栽をしました！



冬ギフト

いつもたくさんのご利用ありがとうございます。
 店頭では冬のギフト商品を多数ご用意しております。また
 バレンタインにむけて今年も限定商品などを準備中です。
 お近くにお越しの際
 はぜひお立ち寄りく
 ださい。
 皆様のご来店お待ち
 しております。



Instagramのご紹介

お店の情報をアップしています
 ので、ぜひご覧ください♪



(中田 記)

訪問看護ステーション

～訪問の様子～

でんしゃであそぼう!



もっとあそびたいなあ♪



まみー、せんろください♪



これを ここにはめて♪



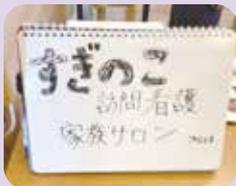
プテラノドンのできあがり!!



これは ここにはめて♪



～家族サロン開催しました～



ララのお菓子でおもてなし♡



皆さまに ご満足いただけ 職員一同 感謝です!!

(岡野 記)

萩の杜家族会 掲示板

9月	行	事
11日	イオン黄色のレシートキャンペーン（関連店での買い物協力依頼）	
28日	サークル萩（今城塚公民館）	
10月	行	事
11日	イオン黄色のレシートキャンペーン（関連店での買い物協力依頼） 家族会定例会 ・植松家族会会長挨拶 ・事務局 サークル萩 通所部 会計 活動報告 ・施設からの報告	
26日	サークル萩（今城塚公民館）	
11月	行	事
9日	安全対策委員会	
11日	イオン黄色のレシートキャンペーン（関連店での買い物協力依頼）	
16日	親睦会 ホテル アベストグランデ高槻 17名出席	
23日	サークル萩（今城塚公民館）ミスバリエステティック専門学校のマスター生によるハンドマッサージ	

（池永 記）

年に一度の恒例の親睦会を11月16日（木）に開催しました。

J.R高槻駅近くのホテルでのランチでした。好みの飲物で乾杯した後、注文のプレート料理とバイキング料理、飲物、デザート等を選んで食べることが出来ました。

近場で集まり易くもあり、17名と大勢の参加がありとてもにぎやかでした。2時間ゆっくりおいしい物を食べ、おしゃべりもはずみ楽しい時間を過ごせました。来年も皆さん元気で集まりましょう。



11月23日（木）のサークル萩ではいつものように座椅子とチューリップの作成作業をしました。その後、笠原さんの知り合いのエステ専門学校の方々（孫の年齢くらいの綺麗な女性たち）が来られ、長年ボランティア活動をしている団体の私たちにサービスでハンドマッサージをして下さいました。

1人30分かけて肩から指先まで丁寧にマッサージをして下さり、手がすべすべになりとても気持ち良かったです。山尾さん手作りの美味しいクッキーとコーヒーで和やかな交流をして、彼女たちに出来上がったばかりのチューリップを3本づつプレゼントして喜ばれました。

私達も若返った気分になりました。



ジョブサイトひむろ家族会 掲示板

9月	行	事
5日	第4回役員会（クロスパル高槻 4F会議室 402） <議題> ①ジョブサイトひむろよりの報告（森田施設長） ②会計報告 ③ひむろ祭り報告（アンケート結果） ④今後の予定（定例会・役員会など）	
25日	家族会会長会（生涯学習センター第2会議室 東会長出席）	
28日	第1回定例会（クロスパル高槻 5F視聴覚室） <議題> ①法人近況説明（松上理事長・平野常務理事） ②ジョブサイトひむろ建設計画状況及び現状報告（森田施設長） ③家族会より（会計報告など） 第5回役員会（クロスパル高槻 5F視聴覚室） <議題> ①職員さんへのプレゼントについて ②クリスマスプレゼントについて ③定例会について ④役員改選について ⑤家族会会費について ⑥第2回定例会（2月20日開催予定）	
10月	行	事
18日	経営協議会（Zoomにて東会長出席）	
11月	行	事
20日	グループホーム新設希望者の会 「レジデンスなさはら」グループホーム見学会 参加者8名	
21日	第6回役員会（高槻市地域福祉会館会議室1） <議題> ①「ジョブサイトひむろ」より（森田施設長） ②会計報告 ③クリスマスプレゼントについて ④役員改選について ⑤今後の予定（定例会・役員会など） ⑥「レジデンスなさはら」グループホーム見学会の報告	
27日	後援会役員会（生涯学習センター第1会議室 東会長出席）	

（岡 記）

ジョブサイトよど家族会 & ジェイ・ブランチよど家族会 掲示板

9月	行	事
5日	9月定例会（淀川区民センター） 「日中活動の取り組みについて」 ジョブサイトよど家族会（出席：7名） ジェイ・ブランチよど家族会（出席：3名）	
25日	家族会会長会（高槻市生涯学習センター） 出席：永井会長、玉木会長	
10月	行	事
14日	ジョブサイトよど家族会、ジェイ・ブランチよど家族会 合同役員会（ジョブサイトよど1階）	

ジョブサイトよど家族会 & ジェイ・ブランチよど家族会 掲示板

11月	行	事
7日	11月定例会（淀川区民センター） 「日中活動の取り組みについて」「グループホームの現場から」 法人：下部長、原田副部長 ジョブサイトよど家族会（出席：6名） ジェイ・ブランチよど家族会（出席：3名）	
27日	北摂杉の子会後援会 臨時役員会（高槻市生涯学習センター） 出席：永井会長、玉木会長	

（永井 記）

ぶれいすBe家族会 掲示板

9月	行	事
4日	参観&ランチ 参加者：7名	
13日	役員会（ぶれいすBe会議室）参加者：10名 ・参観&ランチの報告 ・定例会について ・Beどうし夏・秋号について	
25日	家族会会長会出席（高槻市生涯学習センター）	
10月	行	事
3日	参観&ランチ 参加者：6名	
11日	役員会（ぶれいすBe会議室）参加者：8名 ・参観&ランチの報告 ・定例会の最終確認	
14日	定例会（カフェBe）参加者：会員 26名Beより竹内施設長 10:00~11:30 ・第14期 上半期活動報告 ・第14期 上半期会計報告 ・第14期 下半期活動計画 ぶれいすBeより ・活動報告 ・2022年10月から2023年9月までの事故に関する年次報告 全体の質疑応答	
11月	行	事
8日	役員会（ぶれいすBe会議室）参加者：9名 ・定例会（10月14日開催）の振り返り ・寄付金について ・カフェBeチケット配布について ・勉強会の内容について	
15日	参観&ランチ 参加者：6名	
27日	北摂杉の子会後援会臨時役員会出席（高槻市生涯学習センター）	

（大曾根 記）



北摂杉の子会 後援会 掲示板



本会の活動に対して多くの方々や企業、団体、また法人家族会の皆様のご支援を頂き、誠にありがとうございます。今後ともより一層のご支援、ご協力をよろしくお願い申し上げます。

<報告事項>

I 会員数の動態と資金について

	個人会員数	納入率	団体会員数	納入率	寄付
4月	589	(3%)	36	(0%)	0
5月	592	(17%)	36	(14%)	6
6月	593	(22%)	36	(19%)	9
7月	595	(23%)	36	(22%)	11
8月	598	(25%)	36	(22%)	14
9月	599	(28%)	36	(22%)	14
10月	600	(28%)	36	(22%)	15
11月	602	(42%)	36	(22%)	16

11月末現在の増減・累計

個人：13名 団体：0 寄付：16名
資金 会費：814,000 寄付：318,000円 合計：1,132,000円

II 今年度11月末までに会費、寄付金合わせまして1,132,000円の資金を頂戴いたしました。ご支援、ご協力に感謝申し上げます。

III 臨時役員会を開催（2023年11月27日）し下記の案件について確認。

1. 今年度の会員動態と資金の推移について
 2. 今年度の寄付金使途について
 3. 年度計画の進捗確認
 - ・各家族会の活動報告
 - ・会員維持・拡大の課題の検討
 - ・次回臨時役員会の開催予定
- 日時：2024年2月19日（月）14：30～16：00
場所：法人本部およびzoom

（沖本 記）

寄付と後援会入会のお願い

社会福祉法人「北摂杉の子会」後援会の趣旨に賛同され、ご支援して下さる方々の寄付及び後援会への入会をお願い申し上げます。寄付金と後援会費は法人を支援するための資金とさせていただきます。

お振込みは右記口座まで。

皆様のご支援とご協力をよろしくお願い致します。

既に今年度、後援会会費をいただいた方には重ねてのご案内になりますことを、どうかご容赦ください。

記

1. 寄付金(注)
2. 個人会員 年間一口 2,000円
3. 団体会員 年間一口 10,000円

郵便振込口座 北摂杉の子会
00920-8-90859

(注) 任意団体である後援会の領収書では確定申告の際に寄付金控除を受けることは出来ませんので、寄付金控除の出来る領収書をご希望の方は法人の下記口座にお振込み願います。

銀行名：三菱UFJ銀行 支店名 高槻支店 口座名：社会福祉法人北摂杉の子会
口座番号：5085555

～ 皆様の温かいご支援に
感謝いたします ～



□ 法人へのご寄附に感謝いたします。(令和5年9月1日～令和5年11月30日)

棚山薫晴 株式会社輝きプランニング 有限会社若松産業 北摂杉の子会後援会

□ 後援会入会と会費納入に感謝いたします。(令和5年9月1日～令和5年11月30日)

有川由子 有川光洋 有川輝久 有川智美 有川航平 川合定雄 篠田正道 森田豊子 森谷弘雅 森谷薫美
森谷奈津美 棚山薫晴 棚山妙 永田啓子 永田泰士 寺村善則 寺村有理子 遠藤一太 遠藤仁子
高下啓子 岡村敦子 本田英世 本田賀子 本田聡 本田宏美 本田俊之 本田利秋 山口博 山口秀子
長谷川ひろみ 中村豪史 中村義昭 中村節史 中村悦子 中村哲史 中村潤 中村四葉 北村久美子
仁戸田照彦 飯塚雅代 小林美代子 北村久美子 植松芳哲 植松小遙 植松小絢 植松登志子 植松信機
植松正機 植松里枝 芦川香織 井筒浩美 伊藤克行 大曾根哲也 大屋智資 川口清美 河端良一
清藤玲子 河内久和 厚東洋輔 小浦健吾 財津博文 斎藤千鶴 笹尾武司 澤村淑子 下江正治 大門智将
辰巳浩一郎 永村博 西川正義 西口聖治 西山禎一 林慎一郎 松永浩 宮本三郎 山本道規 横山宏幸
和田進 新井隆史
匿名25人

□ 後援会へのご寄付に感謝いたします。(令和5年9月1日～令和5年11月30日)

匿名2人

□ 家族会への物品のご提供に感謝いたします。(令和5年9月1日～令和5年11月30日)

池上みどり 岡田公子 小塚幸恵 前垣睦子 南野佐智子 黒瀬美和子 山尾扶美

□ 家族会へのボランティアに感謝いたします。(令和5年9月1日～令和5年11月30日)

佐々木映世

(敬称略 順不同)

発行人 社会福祉法人 北摂杉の子会
理事長 松上 利男

発行所 北摂杉の子会

住 所 大阪府高槻市城北町1丁目6-8

発行日 2024年1月31日

定価100円

施設住所一覧

- 社会福祉法人 北摂杉の子会 法人事業部 人材育成研修室**
(法人独自の公益事業〈研修・講師派遣・コンサルテーション〉)
〒569-0071 高槻市城北町1丁目6-8 奥野ビル3F
TEL (072)662-8133 FAX (072)662-8155
 - 障がい者支援施設 萩の杜 (施設入所支援・生活介護)**
〒569-1054 高槻市大字萩谷14番地1
TEL (072)699-0099 FAX (072)699-0130
 - 萩の杜 日中活動支援センターふれっとなさはら (生活介護)**
〒569-1041 高槻市奈佐原2丁目4番25号
 - 萩の杜ショートステイセンター ぶれす (短期入所・日中一時支援)**
〒569-1054 高槻市大字萩谷14番地1
TEL (072)699-0844 FAX (072)699-0199
 - グループホーム とんだ (共同生活援助)**
〒569-0814 高槻市富田町5-13-14 101号室
 - レジデンスなさはら (共同生活援助)**
〒569-1041 高槻市奈佐原3丁目15番1号
 - レジデンスなさはら2丁目 (共同生活援助)**
〒569-1041 高槻市奈佐原2丁目1番8号
 - レジデンスなさはらもとまち (共同生活援助)**
〒569-1041 高槻市奈佐原2丁目4番26号
 - ジョブサイトひむろ (生活介護)**
〒569-1141 高槻市氷室町1丁目14-27
TEL (072)697-2234 FAX (072)697-2222
 - 高槻地域生活総合支援センター ぶれいす Be (生活介護・就労継続支援B型・短期入所・日中一時支援)**
〒569-1131 高槻市郡家本町5番2号
TEL (072)681-4700 FAX (072)681-4900
〈短期入所〉 TEL (072)681-4720
 - 生活支援センター あんだんて (指定特定相談支援・指定一般相談支援事業)**
〒569-1131 高槻市郡家本町5番2号
TEL (072)681-4755 FAX (072)681-4900
 - 大阪府発達障がい者支援センター アクトおおさか (発達障害者支援センター事業)**
〒540-0026 大阪市中央区内本町1丁目2-13 谷四ばんらいビル10F
TEL (06)6966-1313 FAX (06)6966-1531
 - 児童デイサービスセンター an (児童発達支援・放課後等デイサービス事業)**
〒532-0023 大阪市淀川区十三東1丁目1番6号
TEL (06)4862-5454 FAX (06)4862-5466
 - こども発達支援センター will (児童発達支援・放課後等デイサービス事業)**
〒569-0071 高槻市城北町1丁目6-8 奥野ビル2F
TEL (072)662-0100 FAX (072)662-0056
 - こども相談支援センター wish (指定特定相談支援・指定障害児相談支援事業)**
〒569-1131 高槻市郡家本町5番2号
TEL (072)668-4776 FAX (072)681-4900
 - 自閉症療育センター Link (児童発達支援・放課後等デイサービス事業)**
〒573-0032 枚方市岡東町24-10 アイエス枚方ビル3F
TEL (072)841-2411 FAX (072)841-2412
 - ジョブサイトよど (生活介護)**
〒532-0023 大阪市淀川区十三東2丁目4番2号
TEL (06)6838-7007 FAX (06)6838-7015
 - ジェイ・ランチよど (就労継続支援B型)**
〒532-0023 大阪市淀川区十三東2丁目3番10号
TEL (06)6303-9430 FAX (06)6195-3710
 - レジデンスよど三津屋北ホーム (共同生活援助)**
〒532-0032 大阪市淀川区三津屋北1丁目9番6号
 - レジデンスよど十三ホーム (共同生活援助)**
〒532-0024 大阪市淀川区十三本町2丁目14番9号
 - ジョブジョイントおおさか (自立訓練〈生活訓練〉・就労移行支援)**
〒532-0023 大阪市淀川区十三東1丁目1番6号
TEL (06)6100-0150 FAX (06)6309-3007
 - ジョブジョイントおおさか たかつきランチ (自立訓練〈生活訓練〉・就労移行支援)**
〒569-0072 高槻市京口町9番3号 関西産業ビル1F・4F
TEL (072)668-1123 FAX (072)668-1165
 - すぎのご訪問看護ステーション (訪問看護)**
〒569-0071 高槻市城北町1丁目7-16 リーベン城北401
TEL (072)668-2670 FAX (072)668-2671
 - 豊中市立児童発達支援センター【通所部門】**
〒561-0854 豊中市稲津町1丁目1番20号 1階
TEL (06)6676-7890 FAX (06)6676-7889
- 【法人自主製品店舗】**
- 「LaLa-chocolat (ララ ショコラ) /TAKATSUKU」**
就労継続支援B型
〒569-0071 高槻市城北町2丁目13番2号
TEL (072)668-5055 FAX (072)668-5081
営業時間：10:00～19:00(日・祝休み)
- ※■は行政よりの委託事業